

連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

2021.6

vol.182

TAVI 300例



大動脈弁狭窄症に対する治療、経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI)は2013年に日本で保険診療が開始されました。鹿児島県では施設整備等の遅れのため、なかなか実施できない状況が続きましたが、

2017年6月に当院が鹿児島県で最初の症例を経験することができました。その患者さまは今もご存命で、年1回の診察のたびに、その当時お互い不安の中で一緒に闘い抜いたことを思い出し、ともに涙を流しながら今健在であることを喜んでいます。しかし、その治療開始は都道府県別で43番目、施設別では118施設目と、出遅れたことにより、鹿児島でTAVI治療を施すことができず、今では救命できる患者さまを救えなかった悔しい経験を思い出します。

当院は循環器診療の中核病院として、標準治療を中央に遅れることなく、鹿児島の患者さまに安心安全に提供する責務を担っております。TAVI治療は隔週1回、1日2例からはじまりましたが、院内のチーム連携のおかげで、現在では毎週1回、1日3例が実施できるようになりました。多くの患者さま、医療機関の皆様に支えられ、誠実に診療を続け、2020年にはTAVI年間症例数111例、全国15位の実績となりました。治療開始から3年10カ月が経過し、2021年4月には通算300例目を迎えることができました。これまでも自己拡張型を使用したTAVIを8例、心尖部アプローチのTAVIを11例のTAVI治療も経験し、多様化する患者さまの病態に応じた治療をおこなっています。

しかし統計学的には大動脈弁狭窄症の治療を必要としている患者さまが、いまだ鹿児島県に6300人、鹿児島市に1800人存在していると推定されています。当院ではこの数年、年間100例を超えるペースでTAVIをおこなっていますが、まだ治療が必要な患者さまに適切なタイミングでTAVIを施せていないと思われる。患者さまの多くは高齢で、複数の合併症を有しており、その治療は慎重に行わなくてはなりません。そのためには循環器内科医師、心臓外科医師、麻酔科医師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、臨床工学士、理学療法士、医療クラークのメンバーから構成されるハートチームの存在は不可欠で、チーム一丸となって一步一步治療を実践しています。30名を超えるチーム構成となりますが、それぞれがより一層の改善をめざし、日々精進しています。

最近はその適応が心臓外科手術を選択していた比較的若い患者さまにも広がる傾向があり、長期的に良好な予後を見据え、今後より慎重な治療選択を迫られます。また以前は大動脈弁狭窄症と癌などの合併症を患った高齢の患者さまへの積極的な治療を控える傾向がありました。しかし、このTAVIが導入されたことにより、積極的な治療方針へ変更されるケースもあるようです。私達もどの選択が正解なのか、絶えず模索しながら、日々診療を行っていかねばならないと改めて痛感しております。

大動脈弁狭窄症という疾患を通してではありますが、疾患のみではなく、患者さまの健康を、さらに人生がよくなるようにお役に立てるよう、今後も努力しチーム一丸となって精進してゆきます。改めて一緒に闘っていただいた患者さま・そのご家族の皆様、支えたいいただいた医療機関の皆様へ感謝申し上げます。

(文責：第一循環器内科部長 片岡 哲郎)

研修医の声




大園 祐輝

はじめまして。4月から鹿児島医療センターで研修医をさせていただいております大園祐輝と申します。現在は糖尿病・内分泌内科を回らせていただいております。研修が始まってからは採血やルートなどの手技、電子カルテの操作方法と一つ一つ学んでいきます。糖尿病・内分泌内科では、内服薬・インスリンの調整を上級医に教わりながら一緒に行く日々を主に送っています。

はじめはわからないことばかりで不安な気持ちでの研修スタートでしたが、指導医の先生方の優しく丁寧な指導のおかげで、充実した学びのある研修医生活をおくることができました。今月からは当直もはじまり自分の未熟さを痛感し、よりいっそう研鑽していこうと思えました。

医師としてはまだまだ未熟者で至らない点が多々あると思いますが、医師としての自覚を持ち積極的に二年間の研修に取り組んでいこうと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



大村 元春

皆さんはじめまして。4月から鹿児島医療センターで研修医として働かせていただいています。大村元春と申します。4月5月は麻酔科を研修させていただいており、大変に思うこともありますが、いろいろなことを勉強させていただいています。6年間の学生生活で学んだことだけでは対応できない、現場で様々な手技をさせていただける環境だからこそ学べることがたくさんある一方で、一度できたことでも患者が違うとできなくなってしまうことも多く、自らの力不足に嘆く毎日を送らせていただいています。また、患者の状態やその症例によって適切な麻酔の導入や維持の仕方が異なり、一例一例患者ごとの適切な手段を考えていくことは研修医の立場ながらすごく興味深く、楽しませていただいています。

これから先多々ご迷惑をおかけすることがあると思いますが、一日でも早く戦力になれるよう努力していきますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



甲斐 祐介

皆様はじめまして。鹿児島医療センターで研修させていただいております。臨床研修一年目の甲斐祐介と申します。中学校から育ってきた鹿児島で医師としての第一歩を踏み出したことを大変うれしく思っております。

鹿児島大学を卒業した後、最初の4、5月は脳血管内科にて研修させていただいております。ルート確保や腰椎穿刺、頸部血管超音波検査など、さまざまな手技を学び、それらを実際に行うたびに、教科書や国試勉強で学んだ通りにはいかないこと、わからないことばかりで、その都度上級医の先生方に手伝っていただいたり、手取り足取り教えていただいたりする毎日です。素晴らしい指導医の先生方、先輩方、同期のおかげで充実した初期研修を送ることができ、大変感謝しております。

まだまだ至らない点も多く、ご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、一日でも早く皆様のお役に立てるよう精一杯努力致しますので今後ともよろしくお願いいたします。



木佐 貴 彩

はじめまして。4月から鹿児島医療センターで研修させていただいております木佐貴彩と申します。私は関東の大学に進学しましたが、鹿児島島の医療に携わりたいと思い、戻って参りました。

4、5月は脳血管内科でお世話になっております。手技や救急対応、病棟業務などたくさんの経験をさせていただき、自分の未熟さを痛感する毎日ではありますが、指導医の先生方や2年目の研修医の先生方、医療スタッフの皆さんにご指導いただきながらとても充実した研修をさせていただいております。

至らない点も多いかと思いますが、一人一人の患者さんに最適な医療を提供できるように、また、1日でも早く戦力となれるように、日々精進して参りたいと思っております。ご指導の程どうぞよろしくお願い致します。



久保田 三義

皆様初めまして。4月から鹿児島医療センターで臨床研修医として勤務させていただいております。久保田三義と申します。私は現在、4～6月の3カ月間、第一循環器内科をローテーションさせていただいております。第一循環器内科では指導医の先生につき一緒に、患者さんの入院、検査、治療、退院、その後のフォローという基本的な診療の流れを勉強させていただいております。初めはほとんど全てのことがわからないという状態でのスタートでしたが、薬の使い方、ICの仕方、病棟業務や採血・エコー等の手技など多岐に渡る内容について、先生方に熱心かつ丁寧に教えていただき、日々少しずつですが医師として成長していると実感しております。6月からは、これまで以上に自立的・能動的に業務にあたり、先生方からのフィードバックを糧にして一日でも早く多くの方のお役に立てるよう、日々精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



庄 亮真

お疲れ様です。今年度から鹿児島医療センターで働く研修医の庄亮真と申します。私は鹿児島で生まれ育ち大学は広島大学で勉学に励み、就職する際地元で医師として成長したい、という思いから満を持して帰郷いたしました。大学ではバレーボール部で多くの試合を経験した体力と精神力、環境の違う同期と学びあう協調性を多少なりとも向上させてきたと思います。現在麻酔科を二か月間研修させていただき、ルート確保や挿管、Aラインなど多くの手技を経験させていただいております。始めは上手いかないながらも多くのご指導の下、上達していく実感がわき麻酔の面白さを体感することができました。また多くのオペを見ることのできる機会なので外科の手技を学んでいきたいという好奇心も湧きました。2年間の研修期間中に様々な診療科や場所で医療を学びながら充実した研修を行おうと思うので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



永仮 優樹

4月から初期研修医1年目として鹿児島医療センターでお世話になっております永仮優樹と申します。

電子カルテや手技など新しいことが多く失敗ばかりではありますが、先生や看護師さんを始めとする多くの方々にご指導を賜わり、充実した日々を過ごしております。

4月からは3か月間、第一循環器内科で勉強させていただいています。

循環器内科では、救急で運ばれてきた患者さんをカテで治療して、元気に帰っていく姿がとても印象的です。

また、入院患者について指導医の先生と治療方針を話し合います。治療の効果がでて患者さまの体調が目に見えて改善したときはとても嬉しかったのを覚えています。手技や質問に対して先生方が根気強く付き合っていたり下さり、早く成長しないといけないと思う毎日です。

人の命と向き合うという大変責任ある仕事ではありますが、一歩ずつ成長していきたいと思っております。まずは、2年間の初期研修をよろしくお願いたします。



西中間 祐希

皆様はじめまして。4月から鹿児島医療センターで研修をさせていただいております、1年目の西中間祐希と申します。現在、脳神経内科で研修させていただいてから1ヶ月経ちました。採血やルート等の手技、

電子カルテの操作、入院患者の管理等を一つずつ学んでいます。毎日学ぶことが多く、充実した日々を過ごしております。少しずつ業務に慣れてきたとはいえ、分からないことやできないことばかりで、自らの力不足を日々痛感しています。そんな中、先生方や2年目の先輩方が丁寧に指導していただき感謝しております。

今まで生まれ育ったこの鹿児島の地で医療に携われることを大変嬉しく思います。鹿児島の医療に貢献できるように今後とも多くのことを学びながら成長していけたらと考えております。今後ともご迷惑をおかけすることがありますが、1日でも早く皆様のお役にたてるよう精一杯努力いたしますので今後ともよろしくお願いたします。



福元 麻葉

はじめまして。4月から鹿児島医療センターでお世話になっております、福元麻葉と申します。現在第一循環器内科で研修させていただいております。右も左もわからない状態からのスタートでしたが、病棟

業務から採血・ルートなどの手技、心エコーや心電図までできることから一つずつ学んでいます。まだまだ不慣れな点が多いですが、先生方や看護師の皆さんに日々温かいサポートをしていただいております。とても感謝しております。

第一循環器内科での研修は、病棟業務や救急外来での対応、カテーテルの補助など様々な仕事があり充実した日々を過ごしています。同じ病名の患者さんでも個々人の背景に応じて臨機応変に治療を考えなければならず、机上の勉強とは違った難しさを感じています。

まだまだ至らないことも多いと思っておりますが、2年間頑張っていきたいと思っております。これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願致します。



柳瀬 桜子

今年度より、臨床研修医として鹿児島医療センターに勤務しております柳瀬桜子と申します。出身は三重で、大学から鹿児島にまいりました。鹿児島は人が優しく、美味しいものも多く、自然も豊か

でとても暮らしやすいです。研修にて、専門性の高い鹿児島医療センターで働くことを、とても嬉しく思っています。4、5月は第二循環器内科で研修させていただき、初めはカルテの書き方もわかりませんでした。指導医の先生方や先輩方、看護師の皆様、コメディカルの皆様に助けていただき、日々多くのことを学ばせていただいております。

まだまだ未熟もので、慣れないことが多くご迷惑をおかけいたしますが、1日でも早く戦力になれるよう、日々頑張っておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いたします。



横田 航士

初めまして。4月から鹿児島医療センターで初期研修をさせていただいております、横田航士と申します。地元である鹿児島で、また医療センターで研修医として働くことができていることを嬉しく思います。

研修が始まり早くも2か月が過ぎました。4、5月は麻酔科で研修させていただき、挿管やルートの確保、CVなど多くの手技を経験し、充実した日々を過ごさせていただいております。学生の頃、学んでいた内容や見学していたものをアウトプットし、実際の現場で行うことの難しさとともに、学んだことをつなげていくこと、さらに深い学びを得られることに喜びを感じています。また、毎日の研修の中で、上級医の先生方はもちろん、多くのスタッフの方に支えていただき感謝しています。

分からないことも多く、ご迷惑をおかけすることもあると思っておりますが、少しでも早くお役に立てるよう日々精進して参りたいと思っております。2年間、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願致します。



吉元 秋穂

4月から臨床研修をさせていただいております、吉元秋穂と申します。

循環器疾患や脳血管疾患など、緊急を要する疾患を手広く学ぶこの病院で研修できることをとても嬉しく思います。

現在、私は第二循環器内科で研修させていただいております。何も分からない私に、上級医をはじめ医療スタッフの皆様が手厚く指導してくださって大変感謝しております。仕事内容としては、カテーテル検査時に橈骨動脈穿刺をしたり、RI検査時にルート確保をしたり、手技を多く経験させていただいており、少しずつではありますが日々成長を感じ、嬉しく思っています。

5月からは当直が始まって患者さんのファーストタッチをするようになって、自分の未熟さを痛感しつつもとても充実した日々を送っています。

至らぬ点多々あり、スタッフの皆様方には今後ともご迷惑をおかけするとは思いますが、精一杯努力してまいりますので、どうかご指導のほどよろしくお願いたします。



診療科紹介 — 脳神経外科 —

2021年4月より前任の谷口先生に代わり赴任して参りました。脳血管障害、特に脳神経血管内治療、脳卒中外科を専門としております。当科は常勤医師2名、非常勤医師1名で診療を行っております。

昨今、脳卒中を取巻く環境は大きく変化してきています。

超高齢化社会の医療問題を解決する目的から、日本脳卒中学会、日本循環器学会など21学会による「脳卒中と循環器病克服5カ年計画」が作成され、2016年度から遂行、2021年度からは第二次「脳卒中と循環器病克服5カ年計画」が遂行されています。また、2018年12月に循環器病対策基本法が成立、同法に基づき循環器病対策推進基本計画が2020年10月に閣議決定され、法的整備も進みました。

その中で、特に脳卒中関連で焦点となっているのが、脳梗塞急性期治療です。

従来からのt-PA静注療法に加えて、2017年に日本脳卒中治療ガイドラインにおいて発症6時間以内の主幹脳動脈閉塞に対する脳血栓回収療法（脳血管内治療）が強く勧められる治療（グレードA）となりました。さらに、2019年10月には、発症から24時間以内へ治療適応が拡大され、脳梗塞急性期における必須の治療法となりました。

当院は、日本脳卒中学会より一次脳卒中センターに認定されております。脳血管内科の松岡先生主導のもと、この脳血栓回収療法を積極的に取り組んでおります。さらに今年度からは、脳血管内科と脳神経外科が連携をとり協力して脳血栓回収療法に従事していく体制を整えております。

また、脳卒中発症予防を目的とした手術も年々重要性を増してきております。未破裂脳動脈瘤においては、開頭クリッピング術が主流でしたが、ネックブリッジステントやフローダイバーターステントなどのデバイスの進歩により、これまでの脳血管内治療では治療困難だった症例においても治療可能となってきております。2020年には日本における脳動脈瘤に対する脳血管内手術件数が開頭手術件数を逆転したとも言われています。また、頸動脈狭窄症においても、これまで頸動脈内膜剥離術のハイリスク群が頸動脈ステント留置術の適応とされてきましたが、新規デバイスの登場により、頸動脈内膜剥離術と同等リスク群での使用が可能となりました。

このように、脳血管内治療の進歩、適応拡大により、選択できる治療の幅が広がりました。患者様それぞれに最適な治療法を提案し、実践していきたいと考えております。

さらに、脳腫瘍などの専門性の高い診療が必要な患者さまにおいては、鹿児島大学病院脳神経外科への紹介、治療依頼が可能となっております。

困っている症例、悩ましい症例などいらっしゃいましたらいつでも御相談ください。

皆様のお役に立てるよう精進して参りたいと思いますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

(文責：脳神経外科医長 久保 文克)

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <https://kagomc.hosp.go.jp/>

【地域連携】 薩田・西田・中本・篠崎・迫田・椎原・出口・石原・吉留・馬場・櫻木・田辺・山之内・宮崎

【がん相談】 松崎・新川・水元・原田・菊永・杉本

地域連携室専用 FAX▶099(223)1177

※休日・時間外は当直者で対応します。

